

# 古文書講読会を知っていますか？

図書館の視聴覚ホールで毎月行われている「古文書講読会<sup>こもんじょう</sup>」。この講読会は、歴史資料館に所蔵している未解読の古文書を解読してその資料を公表することで、地域史の研究の発展に寄与することを目的としています。平成29年に「古文書入門講座」を開催し、その参加者などから引き続き講読を続けたいとの要望があったために、平成30年5月に古文書講読会がスタートしました。講師は、町内在住で町の文化財保護委員を務めている有馬<sup>ありま</sup>守<sup>もり</sup>さん。八幡郷土史会にも所属している有馬さんは、古文書に造詣が深いこともあり、開講当初から講師を続けています。

◎ 歴史資料館



「分かったときの面白さ、それが長く続けられる理由です」



講師<sup>こうし</sup> 有馬<sup>ありま</sup>守<sup>もり</sup>さん  
私が古文書を読むようになったきっかけは、博物館に展示されていた古文書を見て、「これが読めたら面白いだろうな」と思ったことです。

その後、八幡郷土史会で古文書を読む会があることを知り、入会して教えてもらいました。その縁もあり、歴史資料館で古文書入門講座が始まったときに、地域の古文書を教材として解読したいという相談を受け、講師を引き受けることになりました。

古文書を読むコツは、慣れることと、数を読むことです。筆で書かれているので、一人ひとり字の形や癖が違います。ひらがなにもたくさん種類があり、前後の文章から意味を考えて読み解く必要があります。「こういう意味かな」と推測して、それが分かったときに面白いんです。そこが、長く続けられる理由なのかもしれません。

現在は、立屋敷の庄屋が残した「入江<sup>いりえ</sup>文書<sup>もんじ</sup>」を読んでいます。昔の人の暮らしや考え、当時の出来事を知ることができるのが、古文書の魅力ですね。

「読めば読むほど面白い奥が深いです」



受講生<sup>こうじょうせい</sup> 澤田<sup>さかた</sup>勝<sup>かつ</sup>さん  
私は、地域の歴史を知りたいと思ったのがきっかけで、古文書入門講座から続けて参加しています。

古文書は、読めば読むほど面白く、奥が深いですね。講読会では、次に読む文書を1カ月かけて予習します。自分なりに調べますが、間違っていることもあります。それを講読会で教えてもらいながら、一緒に読み解いていきます。

テレビの歴史番組などで古文書が出てくるがありますが、以前は分からなかったものが、今では何と書いてあるのか読めることもあります。そういうときはうれしいですね。読むことが好きなので、8年間続けてこれたのだと思います。これからも続けていきたいです。

「分からない字を調べる過程が楽しいです」

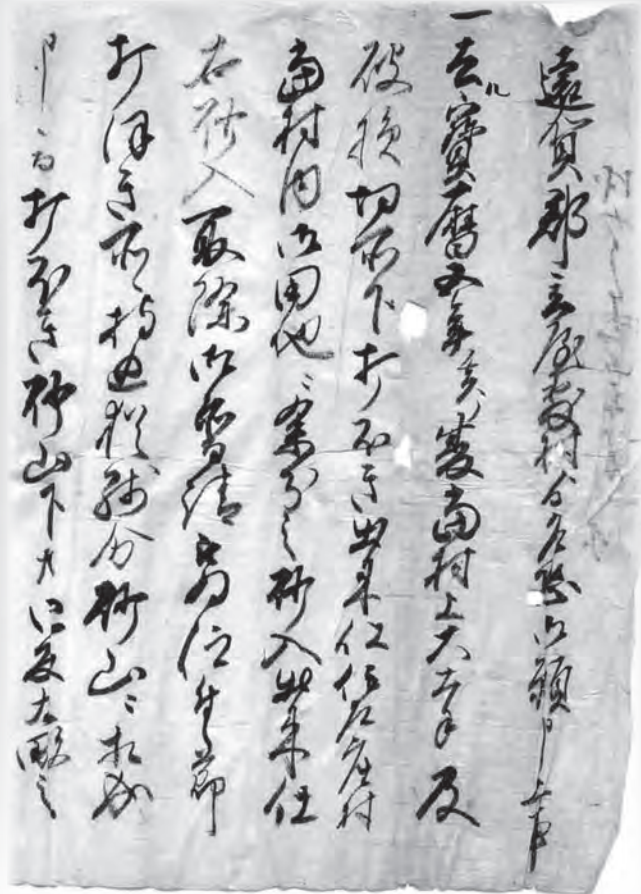


受講生<sup>こうじょうせい</sup> 福田<sup>ふくだ</sup>陽<sup>ひる</sup>さん  
私は歴史資料館に貼ってあったポスターを見て、古文書講読会を知りました。古文書は全然読めませんでした。読んでみるようになってからいいなと思って参加しました。

まだ9カ月ですが、最初の1、2カ月はさっぱり分からない世界でした。それでも、分からない字を調べたり、人に聞いたりしながら考えていく過程が楽しいんです。朝から晩まで集中的に読んだこと

# 古文書を読み解いてみよう

【原文】『入江文書』No.三五二「遠賀郡立屋敷村より乍恐御願申上事」  
いりえもんじょ おそれながらおんねがいもうしあぐること



## 【釈文】

遠賀郡立屋敷村より乍恐御願申上事  
 去ル寶曆五年亥ノ歳当村上大土手及  
 破損切所下打本き出来仕伊左座村  
 当村内御田地ニ余分之砂入出来仕  
 右砂入取除御普請被為仰付候節  
 打保き所へ指込猶殘分砂山二相成  
 申候間打本き砂山下共四反九畝之  
 (以下省略)

## 【読み下し文】

遠賀郡立屋敷村より恐れ乍ら御願ひ申し上げる事  
おそ なが おんねが しょうし あぐること  
 去る宝曆五年亥ノ歳、<sup>①</sup>当村上大土手  
はうりき しのし  
 破損に及び切所下打<sup>②</sup>本き出来仕り、伊左座村  
はうれき しょうし  
 当村内、御田地に余分の砂入り出来仕る。  
 右砂入り取り除き御普請仰せ付けられ候節  
③おんしん  
 打ちほぎ所へ指し込み猶残り分砂山に相成り  
④たん  
 申し候間、打ちほぎ砂山下とも四反九畝の  
 (以下省略)

## 【解説】

- 宝暦5年(西暦1755年)立屋敷村にある遠賀川の土手が破損し、田へ土砂が入り込む被害があった。その全てを取り除くことができず、安永7年(西暦1778年)残りの処理を立屋敷村の役人が郡役所へ願ひ出したもの。
- ①田畑の原形がなくなるほどの被害を受けた跡
  - ②事件が起こること
  - ③工事
  - ④約4860平方メートル

もありますが、いろいろ調べて考えていると「脳みそが熱くなっている」と感じました。以前に病気で倒れ、衰えを感じていたのですが、古文書を始めてから頭がよみがえったような感じがします。まだ分からないことばかりですが、少しずつ読めるようになるのが楽しいです。

「200年前の人たちが意外と身近に感じられます」



受講生 大藤哲生さん  
 もともと古文書に関心があつて、「古文書を読めたらカッコいい!」と思ったのが参加のきっかけです。

見学してみると会の雰囲気もよく、「ずっと続けられそう」と思いました。

古文書は200年ほど前のものですが、読んでみると意外と身近に感じられます。ご先祖様が近くにいるような感じがするんです。字は読みにくいですが、慣れてくると親しみを感じます。私は毎日2ページくらい、少しずつ読むようにしています。これからの目標は、古文書を読むだけでなく、書くこともできるようになることです。

「昔の人の暮らしが見えてくるのが面白い」



受講生 山田勝也さん  
 もともと戦国時代に興味があり、当時の古文書を読みたいと思ったのがきっかけです。今は江戸時代の古文書を読んでいます。当時の農民の暮らしや考え方、風習などが書

かれていて、今とは違うことがたくさんあるところが面白いですね。

講読会に参加するようになって、予習や復習をする習慣も身に付きました。以前は辞典を使って一字ずつ調べていましたが、今はまず全体を見て「なんとなくこんな意味かな」と考えてから調べるようにしています。人が書いたものの文字の癖や誤字脱字もあり、そうしたことを考えながら読むのも面白いです。

これからも知識を深めて、戦国時代の古文書も読めるようになりたいです。

## 講読会に参加してみませんか?

古文書の内容を各自予習して、当日一人ずつ順番に読み下していきます。講師が解説していきます。興味のある人は一度見学に来てください。

とき 毎月第2回13時30分～15時

ところ 図書館視聴覚ホール

費用 2000円(資料代・年額)

①② 歴史資料館

## 古文書が語る

### 水巻の江戸時代展

古文書講読会で読み解いた貴重な資料を展示します。昔の人々の暮らしや思いに触れるひとときを、ぜひ歴史資料館で楽しんでください。

とき 11月5日(金)～29日(日)

ところ 歴史資料館町民ギャラリー

費用 無料

① 歴史資料館